

淫魔

カケラ

18
ADULT ONLY



PRESENTED BY

灯夜工房





それが目覚めた時

覚えているのは
幾重にも奔る光の帯

そして
空腹である事
だけだった

モ!



喰わなければ
死んでしまう

だが何を

自分が何を
求めているのか

自分が何者なのかすら
覚束ないまま彷徨う

待てよ
椎名!!

答えは本能が
示してくれた

ほら早く

アッ

アッ
アッ
アッ

最初の獲物は
雑木林に遊びに来ていた
ヒトの幼体

小さな体を
効率よく使うため
最も反応の良い個所に
喰らい付く

獲物が悶え鳴くほどに
力が満ちるのを感じた

おいッ!?
どうした
んだよ!!

わ...かなッ♡

し...椎名!?

わかんない
よおおお♡



生き返るような
心地……

な…何か
ヤバいよ
おとな
呼ぼうぜ

マオ…
ちゃん…っ


力を得ていくと共に
その触手も成長していく

…しかし同時に
物足りなさも覚える

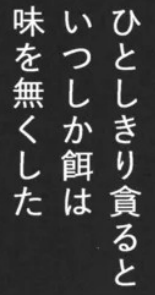
より上等な味を

自分は知っていた
ような……

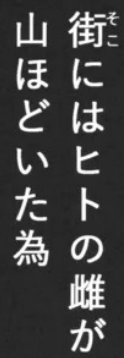




別の獲物を求めて
雑木林を抜ける



ひとしきり食ると
いつしか餌は
味を無くした



街にはヒトの雌が
山ほどいた為

それが餌に不自由
することはなかった



育った触手からだは獲物をより上手く鳴かせられるようになり

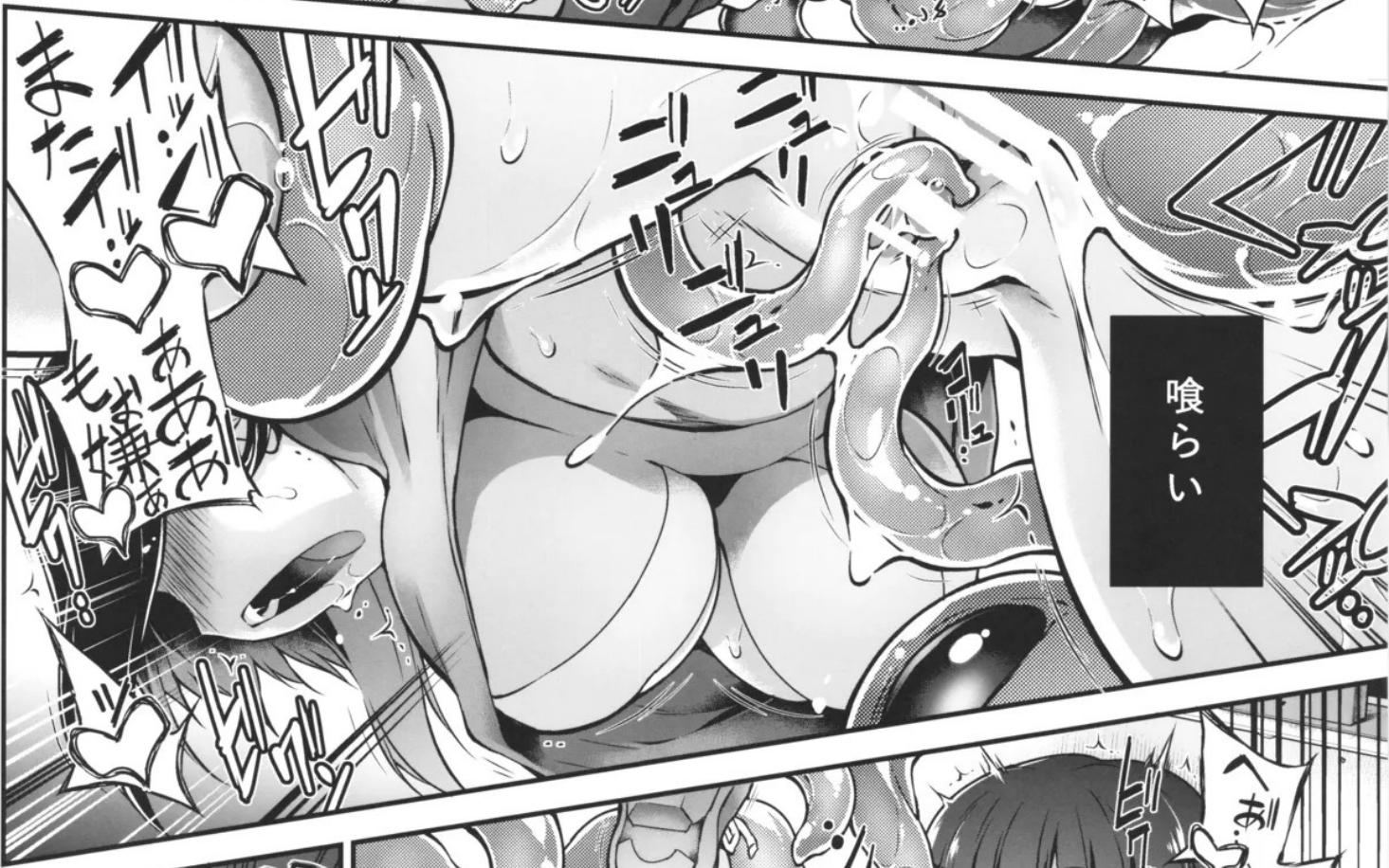


より味わいの高まった餌をひたすらに喰らい



喰らい

体に変化



喰らい

まあ嫌な嫌な



喰らい続けたある時

それは思い出した

クワッ

自分には

この身を
滅ぼしうる存在の
危険さを

随分と好き勝手
やってくれてる
じゃねーか…

「敵」がいた事を


のぞ

…胸くそ悪イ
真似しやがって

落とし前は

テメーの命で
付けて貰うぜ!!

そして—



街に溢れる
他の餌とは違う味が
その敵にはあり

またその味が
他の餌より長く
続いた為

それは食べるように
敵を喰らい
更に成長を続けた



は...ッ
放せ...!!

その全てを喰らい
自らの糧とする

その後も度々
『敵』はやって来た

二の程度

他の餌と違い
攻め手を誤れば
狩られるのはこちら

その生存本能が
触手の形状を進化させ

ひあッ♡
何ッ!?

捕らえた『敵』から
より効率的に
戦う力を
削ぎ落していく

あッ♡
♡
♡

返すっ♡

ルル

あッ♡
あッ♡

もはや
目覚めた頃の飢えも
忘れて久しい

任…務
失敗…ッ

対象は…
再…せ…

飽食と言って
差し支えない程
味の尽きない日々

粘…液ッ…
身体機能…
…異常…お

…なのに
何故か物足りない

満たされない

知っていた
気がするのだ



もっと豊潤で…

身の沸き立つような
味の気配を——



シュウウウ…

廃ビル内に
入った——

——この
嫌らしい瘴気…

…以前狩った
妖魔に似てる

こつちでも
確認したわ
反応は一体だけ…

けど凜
気を付けてね

アレの同種だしたら
かなり危険な相手よ

分かってる…



何人もの討魔士が
返り討ち……

油断しない

閃光——



……
……
……

その剣閃が
肉塊に何かを
思い起こさせる

構わない

自分が本当に
求めていた獲物――

本体を
巧みに庇う
触手の動き……

僕の剣筋を
知ってる……？

全て斬り
落とせば

と殺つた——

ッ…!?

な!?

に…

あり得ない…っ

霊刀に斬られた
触手が動ける
筈が——

斬り祓った
触手が…!?



その妖魔は不死身の
再生力を持っていた

故に彼女が：
生命力ごと魔を断ち切る
霊刀の討魔士が
討伐を請け負ったのだ

だが侮れぬは
妖魔の執念

千々に斬り裂かれた
身よりたった一欠け
逃れた肉片…

それがこの異形の
正体であった

—凜!?

凜!

状況を
報告して—

うあッ…

…ごめん柳…
しくじった…ッ

— 尤も

そっちで何が
起きてるの!?

細かい
妖魔反応が急に
…いくつも…ッ

単なる肉片から育った
今の『それ』に
もはや妖魔だった頃の
知性や意思はない

あるのは食欲
生存本能—

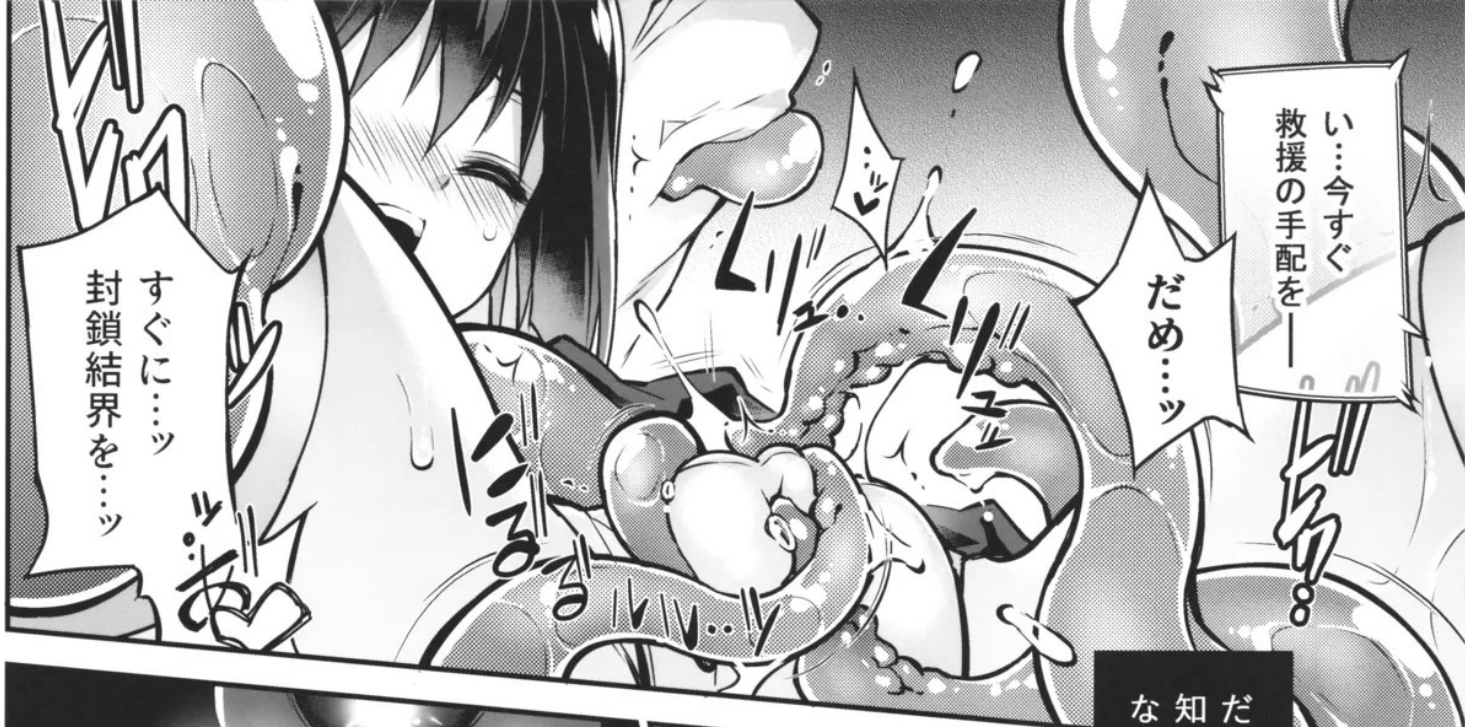
敵…やっぱり
アイツだったッ…

ひたすらに貪り
力を得ること
のみ—

不死身…
…の…ッ

凍ッ!?

んあっ♡



い…今すぐ
救援の手配を—

だめ…ッ

すぐに…ッ
封鎖結界を…ッ



だからこれも
知性が導いた行動
などではない…

純粹に力を
求める本能が

コイツは—

目の前の強敵^{エモ}を
真似ただけの
ことである



危険過ぎる—



霊刀(斬奸)

使い手の気に応じ
変幻自在の刃を成す
神器である

修練を積んだ
討魔士の霊気は
破邪の刃に

かッ…体は
斬れてない…

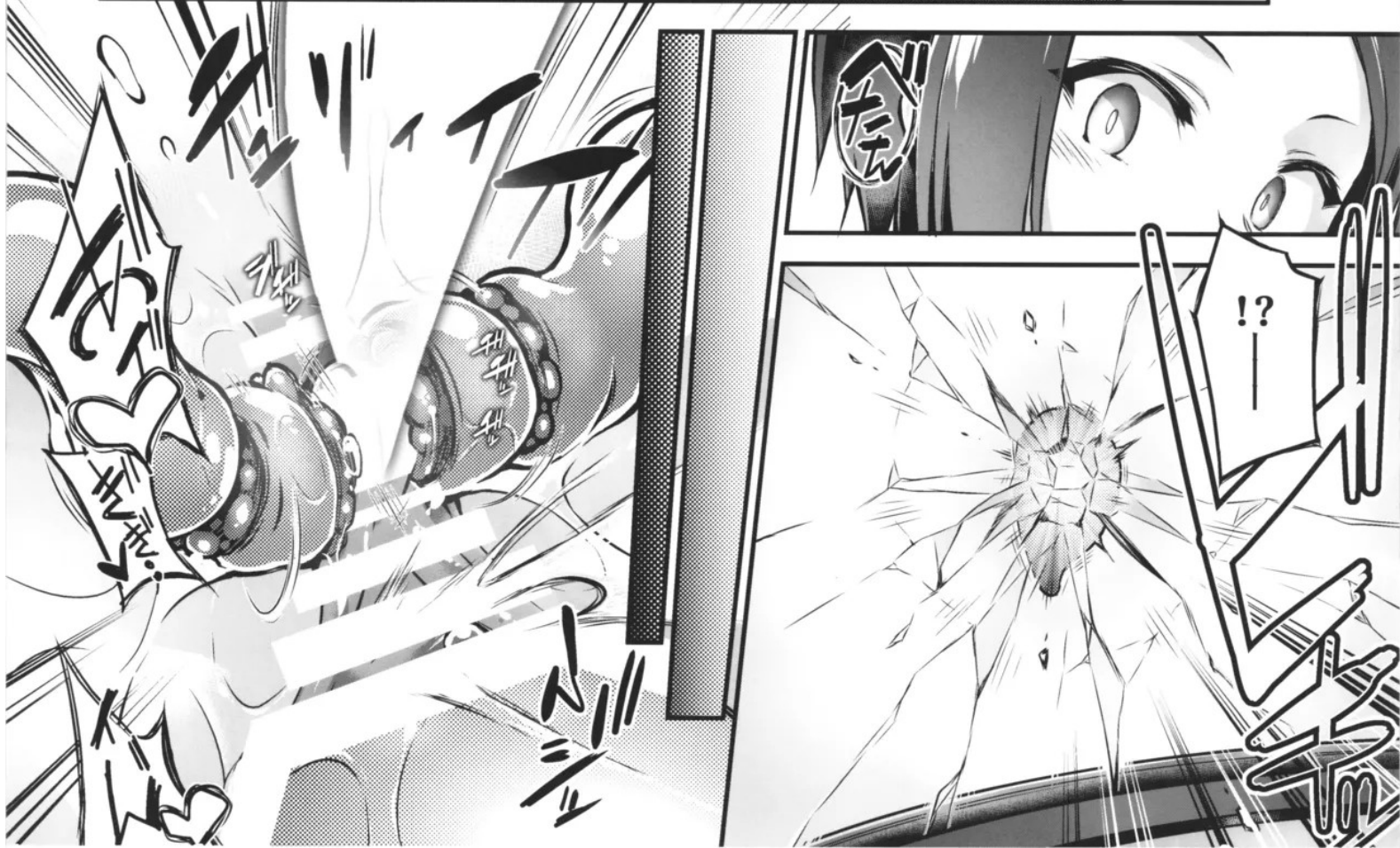
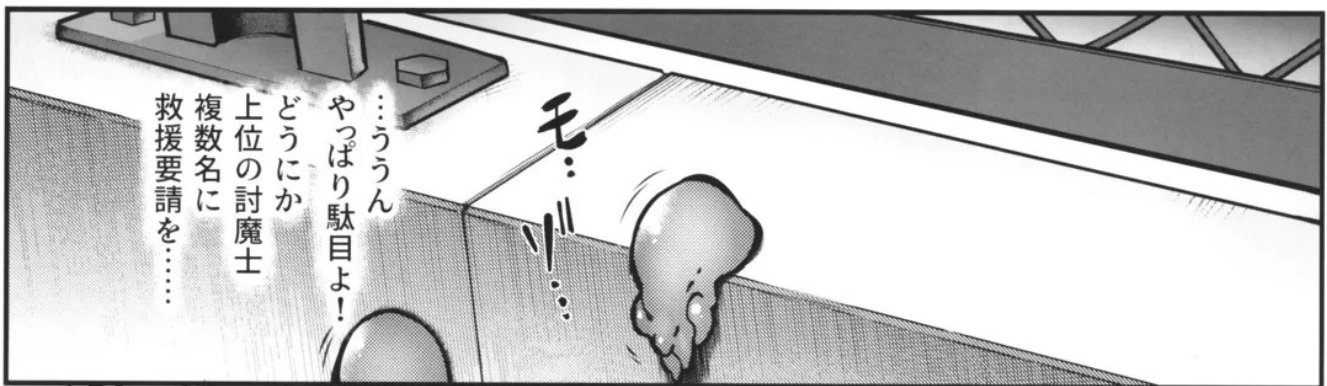
けどッ

これは――

肉欲のみを求む
異形の妖気から
生じた刃は



…本当に
良いの？





イッてる...♡
...から...♡
これ以上...♡

ンヒッ!?

びびる...

びびる...

びびる...

びびる...



や...なぞ...?

私に迷惑なぞ...?

なんて



びびる...

!!!

まず...

びびる...

手に負えな

もう僕らの



かつて見た閃光も
いまや自分の力と
なった

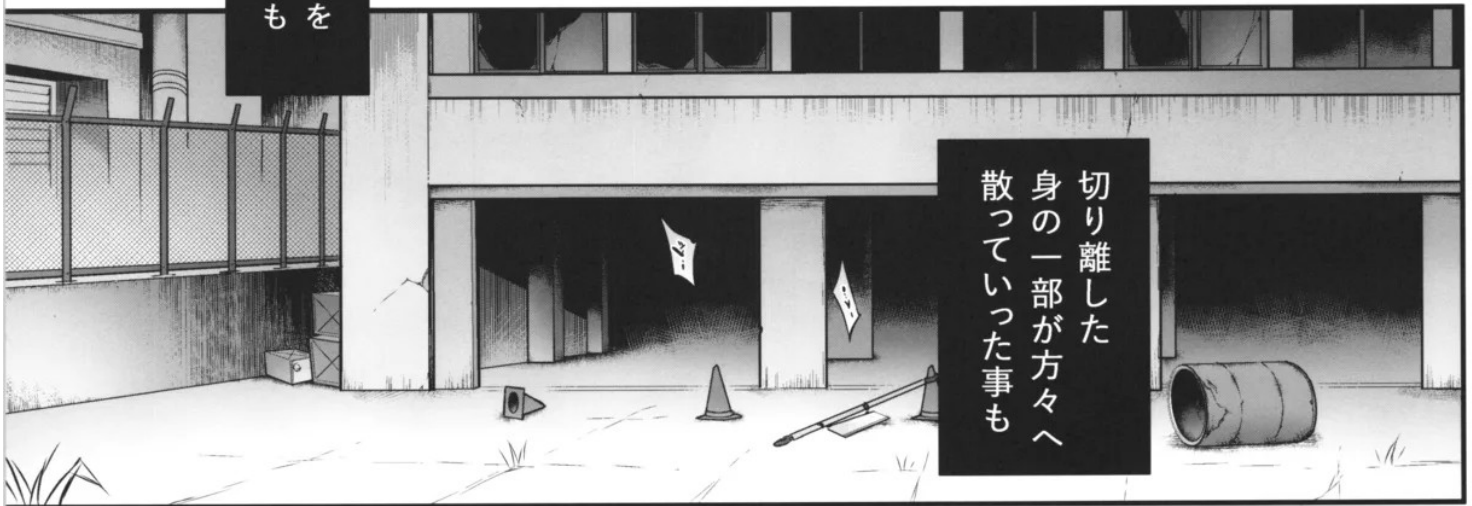
かつての宿敵を
一方的に喰らうそれは
既に元の妖魔を超える
驚異といえるだろう

獲物から
容易に絶頂を
生み出せる刃…



だがそんな事は
どうでもいい

本体の仇を
討てた事も



切り離れた
身の一部が方々へ
散っていった事も



その興味を
引きはしない

それが望むのは
より豊饒な
精気の味わい



新たな獲物との
邂逅のみである――



☐発行日:2024/12/30
☐発行元:灯夜工房【(灯ひでかず)】
☐連絡先:tomosibi18@hotmail.co.jp
☐印刷:ねこのじっぽ様

18歳未満の購入、閲覧、及び無断転載は禁止
なお、触手姦は犯罪です
触手の生えた方、淫魔を召喚できる魔術師の方
間違ってもその力を人に向けないで下さい